

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				確定性	コメント
7 キトウシ 喜登牛 (足寄町)	地区 山岳	キトウシ	kito-us	ギョウジャンニク・群生する	-	山田	B	- いずれにせよ「ギョウジャンニクが沢山あったことが名の元と思われる。」 -
		キトウシイ *キトウシ	{ kito-us-i }	ギョウジャンニク・の多い・所	-	足寄町史		
8 キトウシ 鬼斗牛 (旭川市)	山岳	キトウシ	kito-us	ギョウジャンニク・群生する	キトウシといわれた土地の山であったか、キトの多い山だったからの名であろう。チノミ・シリ(我ら礼拝する・山)であった。	山田	B	-
9 キトウシ 岐登牛 (東川町)	山岳	キトウシヌプリ	kito-us-nupuri	ギョウジャンニク・群生する・山	あるいは山下にキトウシという所があって、その上の山という意だったかもしれない。	山田	B	-
10 キノウシ (神恵内村)	地区 岬	ピリカキノウシイ *ピリカキノウシ	pirka-kina-us-i	美なるガマある所 良い・ガマ(si-kina)が 群生する・所	ピリカを省いて今はキノウシとしたものらしい。この川は高い岩崖の間を下っているので、川尻の所に僅かな平地があるだけで、蒲が生えていたというのはその所だったろうか。	永田 山田	B	-
11 キノウシ 木直 (南茅部町)	地区	キノウシイ *キノウシ	kina-us-i	ガマある所 ガマ・群生する・所	kina は草の総称であるが、地名ではよく si-kina(蒲)を指していったようである。	永田 山田	B	-
12 キモペツ 喜茂別 (喜茂別町)	町 川 山岳	キムウンペツ *キムンペツ	{ kim-un-pet }	山・に入る・川	{ 戊午日誌に喜茂別川筋から山越えて札幌へ行ったことが書かれている。 }	松浦	B	- いずれにせよ、「山・…・川」の形と思われる。 -
		キムオペツ *キモペツ	kim-o-pet	山奥・にある・川	-	山田		
13 キヨサ 清里 (清里町)	町 駅名	-	-	-	清里は母体であった斜里と小清水の一字ずつを採った名であるという。	山田	A	「斜里」、「小清水」参照。
14 キヨハ 清部 (松前町)	地区 山岳	キオペ	ki-o-pe	菅茅の類多き所 {カヤ・多くある・もの}	ki の後に動詞の o は普通付けないし、また o の後に pe は付けない。	永田 山田	B	? - 上原解の方が自然な形と思われる。 -
		キウンペ *キユンペ	ki-un-pe { kiyun-pe }	カヤヨシ 茅芳等の有る所 カヤ・ある・もの(川)	呼ぶときは渡り音がつくのでキユンペとなる。	上原 山田		
15 キョウゴク 京極 (京極町)	町	-	-	-	開拓功労者京極高德の姓によって名づけられた。	山田	A	和名と思われる。

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
16 キョリ 共和 (共和町)	町	-	-	-	昭和30年、前田村・発足村・小沢村3村合併した時、村名を公募して共和村と名付けた。共同親和、和して同ぜず、しかも年号は昭和、こうした点から選定されたものである。	共和 町史	A	和名と思われる。
17 キリタツ 霧多布 (浜中町)	地区 岬	キタツ	ki-ta-p	カヤ・を刈る・所	昔、この島で茅を刈ったという。 霧多布市街は島で、橋によって陸地と繋がっている。	永田 山田	B	-
18 キロロ 貴老路 (浦幌町)	地区	キロル	kiroru	道	ここから山越えすればすぐ本別町市街に出る。昔から通路があって、こう呼ばれた所であろうか。	山田	B	-

【ク】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
1 クサナイ 草内 (積丹町)	地区	クチャナイ	kuca-nay	丸小屋の・沢	kuca は木を円錐形にたばねて作ったテント風の小屋。 狩漁などの時の仮泊用に使われた。	永田 山田	B	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				確定	コメント
2 クシロ 釧路 (釧路市) (釧路町)	市 町 川 駅	クシル	kus-ru	越える道 通る・道	この所から標津海岸や斜里へ越えて行ったため。 この所から斜里領または根室領等へ常にアイヌが往来していたため。	上原山田 松浦山田	C	諸説あり特定しがたい。 - - - - -
		クスリ	kusuri	薬	川上に数ヶ所温泉があり、薬水が流れ出ていたため。	東蝦夷地名解山田		
		チクシル	ci-kus-ru	往還道 我ら・通る・道	網走との往来道の名。	永田山田		
		クッチャロ	kutcaro	咽喉 のど口 = 沼水の流れ出す口	釧路川水源の屈斜路湖湖口(クッチャロと言った)にアイヌの大部落があったが、寛永十二年松前藩がクッチャロアイヌを今の釧路に移して久寿里(クシュリ)場所と称した。久寿里はクッチャロの転訛。	土屋祝郎		
		クシペツ	{ kus-pet }	通り抜ける・川	{ 釧路市HPは、「諸説あるが、昭和50年発行の釧路叢書によれば、クシベツあるいはクシナイが語源にあたり、『通り抜けることのできる川』の意味とある。川が重要な交通路であった頃は、厚岸や根室、十勝、網走への要衝となっていた」と書いている。 }	若林三郎		
		クシシリ	{ kus-sir }	川向こうの・山	-			
3 クチョロ 久著呂 (標茶町)	地区 川	クチオロ	kuci-or	その崖・の所	語義はよく分からない。八重九郎翁は「この川の奥のシクチョロ(シは本流の源流の意)に、崖があって巨鳥が棲んでいて、クッコロカムイ(kut-kor-kamuy 崖・の・神)と呼ばれていた。クチョロはそれから出た名である」といわれた。	山田	B	-
4 クツガタ 沓形 (利尻町)	地区 岬	クツカアンナイ	kut-ka-an-nay	崖・の上に・ある・川	意味が分からない。あるいはクッチカンナイ「kutci-kan(kar)-nay こくわの実・を採る・川」だったかもしれない。	山田	C	-
5 クツャロ 屈斜路 (弟子屈町)	湖	クツチャラ	kutcar	のど口	この湖のクッチャロのすぐ北に昔から有力なコタン(村)があり、クッチャロの名は有名なものであったらしい。和人がその名を採って湖名にしたもの。 { 弟子屈町史は「クッチャロ 湖の水が流れ出る川口」と書いている。 }	山田	A	あるいは所属形の kutcaro で呼んでいたのかもしれない。
6 クツラ 倶多楽 (白老町)	湖	クツタルシト	kuttarusi-to	コジョウ 虎杖浜の・湖	白老町西端の虎杖浜は元来クツタルシと呼ばれていて、多分「虎杖浜の湖」の意味で、クツタルシトと呼ばれたものだろう。 { 虎杖浜は別掲。 }	山田	B	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
7 クッ列屈足 (新得町)	地区	クッタヲウシイ *クツタルシ	kuttar-us-i	イタドリある所 イタドリ・群生する・所	今でもイタドリの多い所である。	永田 山田	B	-
8 クツチャロ (浜頓別町)	湖	トクツチャラ	to-kutcar	湖・喉	アイヌ時代は当時の習慣で、特別の名はなくだト(沼)と呼ばれていたのではなかろうか。その沼の水が川になって流れ出す口の所が to-kutcar と呼ばれていたの、和人がそれを採ってクツチャロ湖と呼ぶようになったものらしい。	山田	A	あるいは所属形の kutcaro で呼んでいたのかもしれない。
9 クツチャン 倶知安 (倶知安町)	町 駅 峠	クトゥサニ	kutu-sani	?	泥土の濁川という。	永田	C	? - 諸説あり特定しがたい。 ? ? - - -
		クツサン	kut-san	-	川が円筒のような地形の所を流れ出していた。ただしその地形に見えない。	知里 山田		
		クツサンイ *クツサニ	kut-san-i	魚を取る道具	箆で筒形に作り、そこに魚が流れ下る仕掛けのものだったろうか。	松浦 山田		
				くだのようなところを流れ出るところ	クツサンイがクツシャニとなり、さらにクツチャンとなった。	倶知安町勢要覧		
				崖(の所)を・流れ出る・もの(川)	川水が昔ぶつつかって崩していた土崖があった所。kut はふつうは岩崖であるが、土崖でもそう呼んだのかもしれない。語尾の i が下略され、クツサン クツチャンとなったものか。(試案)	山田		
クツサムウンペツ *クツサムンペツ	{ kut-sam-un-pet }	岩崖・のかたわら・にある・川	倶知安峠のところにクツサムンペツが語源と思われる。	駅名				
10 クド 九度 (名寄市)	山岳	クトゥヌプリ	kutu-nupuri	{その}崖・山	目立つ独立山。 更科氏は「古い時代には大事なチノミシリ(我ら礼拝する山)であった。」と書いた。	山田	B	- いずれにせよ「崖があった」ことが名の元と思われる。 -
		クウンヌプリ *クトゥンヌプリ	kut-un-nupuri	崖・がある・山				
		クウントウ	ku-un-tu	弓を置く崎 仕掛け弓・ある・山崎				
11 クドリ 久遠 (大成町)	地区	クウン(ネ)エトウ	{ kun(ne)-etu }	弓形崎	弓形に入り込んだ所のある岬のこと。	松浦	C	? - - ? -
				黒い・岬	-			
		クンル	kun-ru	危{?}路	岬の端が崩壊して通路が危険だったため。	永田		
		クンル	kun-ru	危{?}路	岬の端が崩壊して通路が危険だったため。	永田		

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				種別	コメント
12 クナシリ 国後 (北方領土)	島	キナシリ	kina-sir	草・島	-	蝦夷	C	-
13 クネハツ 久根別 (上磯町)	地区 川 駅	クネペツ	kunne-pet	黒川 {黒い・川}	上原氏は「この川の水が常に濁って流れているため。」と書き、松浦氏は「クネは黒く濁る形」と書いた。黒くはないが、ひどい泥水の川である。ひどい泥水も kunne と呼んだらしい。	永田 山田	A	-
14 クホナイ 久保内 (壮瞥町)	地区	クオナイ	ku-o-nay	機弓川 {仕掛け弓・がある・川}	-	永田	B	-
15 クマ 隈 (常呂町)	川	クアマナイ	ku-ama-nay	弓を置く所 仕掛け弓・を置く・川	-	松浦 山田	C	- どちらとも特定しがたい。
		クマ	kuma	魚棚	鮭の上る沢で、昔魚棚が多くあった所だという。	永田		-
16 クマ イ 熊石 (熊石町)	町	クマウシイ *クマウシ	kuma-us-i	物乾し・多くある・所	アイヌ時代には物干し竿に魚を懸けて干したので、クマウシの地名のある所はたいてい好漁場である。	山田	B	-
17 クマ ウシ 熊牛 (弟子屈町)	地区	クマウシイ *クマウシ	kuma-us-i	物乾し棚・多くある・所	魚が多く捕れた所なので、魚乾しの棚が多く並んでいたであろう。 {弟子屈町史も同説を採り、「豊漁の場所の意と書いている。」}	山田	B	-
18 クマ ウシ 熊牛 (清水町)	地区	クマウシイ *クマウシ	kuma-us-i	物干し・多くある・所	クマは先が二股になった棒を二本立てて、上に物乾し竿を渡し、魚などを懸けて乾したもののことであった。	山田	B	-
19 クマ ネ シリ 隈根尻 (浦臼町)	山岳	クマネシリ	kuma-ne-sir	物乾し・のような・山	山頂が平らに見えるため。 {同山の北側に並ぶ神居尻山、ピンネシリ、待根山の三つの山並みを東側から眺めると、横棒のように平らに見えるという。あるいは三つの連山が平らに見えるためだったかもしれない。}	山田	A	-
20 クマ ネ シリ (足寄町)	山岳	クマネシリ	kuma-ne-sir	物乾し・のような・山	{足寄町史は「連峰、連山の意。クマネシリ、西クマネシリ、南クマネシリ、さらに元来はその奥のピリベツ岳をも含めた呼称である。」と書いている。これらの山の連なりが kuma の横棒に見えることから、連峰、連山と意識したものだろうか。}	山田	A	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				確証レベル	コメント
21 クサ 栗沢 (栗沢町)	町 駅	-	-	-	開拓当時現在の市街付近に栗の樹が多く繁茂していたために名づけられたようである。	行政区画便覧	A	和名と思われる。
		ヤムオナイ	{ yam-o-nay }	クリ・の多い・沢	左記の意識。 だが、どの川なのか不明。昔は清真布と呼んでいたが、昭和 24 年改称された。清真布の名のもとになった清真布川は「キオマブ ki-oma-p 茅葎の類があるもの(川)」の意であったろう。	駅名 山田		?
22 クヤマ 栗山 (栗山町)	町 駅	-	-	-	栗が多い所なのでそれにちなんだのだという。	山田	C	-
		ヤムニウシイ *ヤムニウシ	{ yam-ni-us-i }	クリ・樹・群生している・所	-	栗山町		
23 クイ 黒岩 (八雲町)	地区 駅	クネスマ	kunne-suma	黒い・岩	すぐそばの海岸の海中に巨岩があり、それを呼んだものの意識。 {海岸の砂浜にくっついている岩礁で、この辺ではここだけに黒い岩礁が集塊しているという。}	山田	A	
		クネシラ	kunne-sirar					
24 クマツナイ 黒松内 (黒松内町)	町 川 駅 山岳	クルマツナイ	kurmat-nay	和人の女性の・沢	昔は和人の女性はあまり入らなかったで、それが目立って、こんな地名になったのであろうか。	山田	B	-
25 クニ 国縫 (長万部町)	地区 川 駅	クン(ネ)ヌイ	{ kun(ne)-nuy }	黒い・野火	-	上原	C	-
		クンネナイ	kunne-nay	暗川 黒い・川	昔フリカムイ 伝説上の巨鳥 が飛んできて、空が暗くなったため。	永田 山田		-
		クンネ	{ kunne }	黒	海浜に砂鉄があって黒かったため。 {この浜一帯は砂鉄の多い所で、戦後間もなく何か特殊鋼の原料として採取されていたという。}	秦		?
26 クネツ 訓子府 (訓子府町)	町 川 駅	クンネブ	kunne-p	黒所 黒い・もの(川)	やち川で水が黒かったため。 {現在は黒い川とは見えないという。}	永田 山田	B	?
27 クハツ 群別 (浜益村)	地区 川 山岳	ポンクンペツ	{ pon-kun-pet ? }	小石川{?}	kun に「小石」の意味があるだろうか。?	松浦 山田	C	? -
		クンペツ	kun-pet {?}	危川{?}	kun に「危ない」という意味があるだろうか。?	永田 山田		? -
28 クハツ 薫別 (標津町)	地区 川 山岳	クンネペツ	kunne-pet	黒い・川	この辺りに砂鉄があったという。	松浦	C	-
					この川の魚が黒かったため。	永田		?

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				確定	コメント
29 クハッ 薫別 (陸別町)	地区	クネペツ	kunne-pet	黒い・川	-	永田	C	-
	駅	クウンペツ	ku-un-pet	仕掛け弓をする川 弓・ある・川	-	更料 山田		-

【ケ】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				確定	コメント
1 ケトハッ 毛登別 (歌登町)	地区 川	ケツオペツ *ケトペツ	ket-o-pet	獣皮を乾かす張り枠・多くある・川	語義伝承を知らない。音のまま読めばこのように聞こえる。 {歌登町史は「上毛登別との間に崖があり、その崖が獣皮を乾かす張り枠に似ているので、名付けられたのかもしれない。」と書いている。}	山田	C	-
2 ケヌフ 嶮淵 (長沼町)	川	ケネペツ ケネプツ	kene-pet kene-put	ハンノキ・川 ケネペツの川口	語義は伝わっていないが、このような名だったのではな かるうか。 {今は特にハンノキの多いところではないという。}	山田	C	-
3 ケネカ 計根別 (中標津町)	川	ケネウオイカ	keneu-oika	落鱒の越す川{?}	ケネウは鱒の一種で大きく、能く陸を走り、好んで ^{フキ} 路を食 べるため和人が落鱒と呼ぶ。標津川より陸を越えてこの 川に入ったのでケネウオイカという。	永田	C	? -
	地区	ケネカ(ペツ)	kene-ka(-pet)	ハンノキの上手(の川)	そのまま読めば、このように聞こえる。 地名ではそれが略されて計根別となったものか。あるいはケネ・ペツ(ハンノキ・川)とも呼ばれてそれが計根別とな ったのかもしれない。	山田		-
4 ケノマイ 慶能舞 (門別町)	川	ケンオマイ *ケノマイ	ken-oma-i	ヒルガオの根・ある もの(川)	ケンはアイヌの食料草なり。 {門別町史は「ヒルガオは海岸地帯に多く、豊郷と清島 間の砂丘にたくさん咲いている。」と書き、同説を支持して いる。}	松浦 山田	A	
5 ケリマイ 鳧舞 (三石町)	地区 川	ケリマフ	keri-ma-p	履焼場 {履物・焼く・所}	昔、飢餓に堪えきれず、鮭の皮で作った ^{ハキモノ} 履物まで焼いて 食べたという言い伝えによる。	永田	C	-
		ケリオマフ	keri-oma-p	魚皮沓有る 履物・ある・所	昔、ここに城があり、合戦に負けて ^{ロフゾウ} 籠城し、食糧がつき てしまい、ケリまで食べたためという。	松浦 山田		-
		ケロオマフ	kero-oma-p	ヒザラガイ・ある・所	-			-
		ケニオマイ	{ keni-oma-i }	ヒルガオの根・ある・所	-	駅名		? -

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
6 ケロチ 計呂地 (湧別町)	地区 川	ケリオチ *ケロチ	keri-oci { keroci }	鮭履を忘れたる所 履き物・多くある所	そのころのアイヌの解らしい。	永田 山田		? -
		ケレオチ	-	非常に削られたところ	地形から見て、この意であると思われる。 {湧別町史も同説を採り、「一説には『鮭履を忘れたところ』と解する人もいるが、そうしたことは地名にはならない。」と書いている。}	駅名	C	? -
7 ケンイ 見市	川 山岳 地区	ケネニウシ *ケネニウシ	kene-ni-us-i	赤楊多き所 {ハンノキ・の木・群生する・所}	ふつうケネとは使わない。	永田 山田		? -
		ケネウシ *ケネウシ	kene-us-i	ハンノキ・群生する・者(川)		山田	C	-
8 ケンブチ 剣淵 (剣淵町)	町 川 駅	ケネニペツ	kene-ni-pet	赤楊川 {ハンノキ・の木・川}	ふつうの用語では、ニ(-ni)は余計である。	永田 山田		? -
		ケネペツプトウ	{ kene-pet-putu }	赤楊川の川口	-	駅名	B	いずれにせよ「ハンノキがあった」ことが名の元と思われる。
		ケネ(ペツ)プチ	kene(-pet)-puci	ハンノキ(・川)・その川口	天塩川との合流点がこう呼ばれていて、それが全体の川名となったのではないか。なお、地名では pet を省くことが多い。	山田		-
9 ケンポク 險暮帰 (浜中町)	地区 島	ケネポク	kene-pok	赤楊の下 {ハンノキ・の下}	ハンノキが生えていたのでついた名であろう。	永田 山田	B	-

【コ】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
1 コウシナイ 光珠内 (美唄市)	地区 駅	カウシナイ	ka-us-nay	ワナ締川 わな・ある・川	わなで鹿を捕った所。 峰延駅のすぐ北の川の名が地名となって広がったのだろう。ka は糸という意で、それから糸を使った「わな」の意にも使われた。	永田 山田	B	-
2 クオマイ 鴻之舞 (紋別市)	地区	クオマイ	ku-oma-i	仕掛弓・ある・所	{明治 28 年図には、鴻之舞金山のかたわらを流れている川に「クオノマイ」とあるという。クマの出没するところだという。}	山田	B	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
3 コウフク 幸福 (帯広市)	地区	-	-	-	幸震村内の、福井県人が入植した土地だったので、その一字ずつを採って幸福という地名にしたのだとのことである。	山田	A	「幸震」については、「大正」の項参照。
4 コイトイ 声問 (稚内市)	地区 川	コイトウイェ	koy-tuye	浪越 {波が・崩す}	波のために砂場が潰決する所。 同名は全道の海岸に多い。川尻の所が砂浜の中を海岸線に並行したような形で流れていて、風波がその砂浜を破り、川がそこで海に直流するようなことがあるので、この名で呼ばれたのであろう。	永田 山田	A	語尾に-i がついた形だったかもしれない。
5 コガネ 黄金 (伊達市)	地区 駅	オコムプウシペ *オコムプシペ	o-kompu-us-pe { o-kompus-pe }	昆布場 川尻に・コンブ・群生する・者	川尻の海中に岩があって、昆布が生えていたため。 元、黄金薬(オコンシペ)と呼ばれた地名が、黄金と改称された。 {沖の方にはコンブのつく暗礁はあるが、川尻の周りにはコンブのつく岩はないという。明治の頃は、この川尻の周りの砂浜に寄せコンブがあがって、それが腐ってひどい臭いを出していたともいうので、だとすれば us の意味は「多い」だったかもしれない。}	永田 山田	A	
6 コキル 濃昼 (厚田村)	地区 川 山岳	ポキンピリ	pokin-pir	蔭の蔭 ----- 水渦巻 下の・渦、蔭、傷	この辺が岬の蔭だったため。 ----- ここの岬と厚田領の岬の間に水の渦巻があったため。	松浦 山田	C	? - ? -
7 コシミス 小清水 (小清水町)	町	-	-	-	明治48年駅通設置の際に、 ^{ヤンベツ} 止別川の支流ボンヤムベツ(小さい・冷たい・川)を意識して名付けたものを大正8年分村の際に村名とした。	駅名	A	和名と思われる。
8 コジョウハマ 虎杖浜 (白老町)	地区 駅	クッタラウシイ *クツタルシ	kuttar-us-i	イタドリ・群生する・所	元来クツタルシと呼ばれていた地名。イタドリの漢字は虎杖であり、訳名を使って地名としたもの。 {クツタルシ川から出た名と思われる。イタドリの多い川だという。}	山田	A	
9 コタニ 小谷 (厚田村)	地区	コタンナイ ----- コタニ	kotan-nay ----- kotani	村・川 ----- その村	昔、アイヌがこの沢に沢山居たため。 ----- コタニ(kotan-i)なら「その村」の意。それからの名かもしれない。	松浦 山田	C	- -
10 コタカ 古多糠 (標津町)	地区 川	コタヌカ	kotanu-ka	その村・の上 所	松浦氏知床日誌は「コタヌカ。村所という義」と書き、永田地名解は「コタノカ。 kotanoka 。村跡。コタン・オカケと同じ。往古アイヌがいたときはコタヌカといった。コタンウカケの急言で村上の義なり」と記したが、よくわからない。あるいは左記ぐらいの意味だったか。	山田	C	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				確証	コメント
11 コタン 古潭 (厚田村)	地区 川	コタンペツ	kotan-pet	村・川	昔からアイヌの家がこの所に有ったため。	松浦 山田	B	- いずれにせよ「コタンがあっ た」ことが名の元と思われる。 -
		コタンウンペツ *コタンンペツ	kotan-un-pet	村の川 村・のある・川	この川筋に古くからアイヌのコタンがあったため。	永田 山田		
12 コタンペツ 古丹別 (苫前町)	地区 川 山岳	コタンペツ	kotan-pet	村・川	{松浦氏は戊午日誌で「コタンヘツ本名コタンウシヘツ。 川端の上に人家2軒あり。」と書いた。}	山田	B	-
13 コタニイ 小谷石 (知内町)	地区	コタヌウシイ *コタヌウシ	kotanu-us-i	その村・ある・所	ここは天越岬のすぐ手前で、もう行き止まりの所である。 人が入って住むようになったころについた名だろうか。	山田	C	-
14 コップ (深川市)	山岳	コウベツタコフ	niuspet-tapkop	入志別川の・たんこぶ山	入志別川水源の山で、この辺での目標になる山である。 タフコフを前略したものらしい。	山田	A	
15 コトニ 琴似 (札幌市)	地区 川 駅	コツネイ	kot-ne-i	凹地・になっている・もの	北大裏に穴居跡が多かったので、コツ(穴)はそれかとの 説もあったが、コトニ諸川がいずれも泉池から出ていて、 そこは低い凹地であった。その凹地が琴似の kot だった のではなかったらうか。なお、アイヌ時代には、大通公園 から北海道大学までにあった、たくさんの泉池川の水系 の名がコトニで、その辺の土地の名でもあった。	山田	B	? 山田解が妥当と思われるが、 他に諸説もあり、特定困難。 ? -
		コトゥネイ	kotune-i	低所{?}	{「kotune」は「kotne」の誤植か?}	永田		
16 コピラ 小平 (平取町)	地区	クオピラ	ku-o-pira	弓・ある・崖	橋を作る時に壊されてしまったが、平取市街から大橋を 渡った東岸に崖があり、動物を捕るための仕掛け弓が置 かれていたという。	山田	B	-
17 コマハツ 駒別 (壮瞥町)	地区	レレコマペツ	{ rerko-oma-pet }	三日宿 {三日間・ある・川}	水路険悪で、三日も宿泊することがあったため。	永田	C	? ? -
		レレケオマペツ *レレコマペツ	rerke-oma-pet rerkomapet	山向こうの所・にある・川	対岸のペンケ川の人たちが呼んだ名を、前略したもので はではなかろうか。	山田		
18 コムケ 小向 湖 (紋別市)	地区 湖	コムケト	komke-to	折れ曲がっている・沼	コムケ湖は、中央部が細くくびれていて曲がっているの で、こう呼ばれていた。	山田	A	